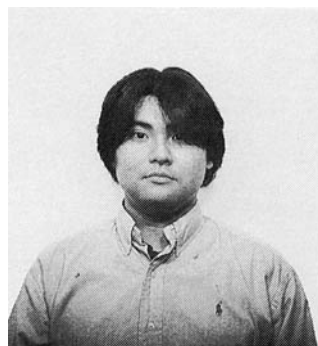


## ビームラインアシスタント紹介

### PF 体験記

大阪市立大学大学院 理学研究科 構造生物化学研究室  
中嶋 義隆

2000 年 6 月 30 日から、前期のビームタイム終了となる 7 月 25 日まで共同利用実験のお手伝いをさせていただきました中嶋義隆と申します。現在、大阪市立大学大学院、理学研究科の後期博士課程 2 年で、構造生物化学研究室に所属しています。当研究室の名称は、昨年度まで“構造化学”でしたが、主たる研究テーマが、低分子の構造解析から、たんぱく質の構造解析へと比重が移ってきておりましたので、この春より“構造生物化学”と変更されました。



私の研究テーマは、ペルオキシソームでの脂肪酸の酸化の第一段階を触媒するフラビン酵素であるアシル-CoA 酸化酵素の結晶構造解析です。

これまで、PF には共同利用実験で、何度か来ておりましたが、半年に 1 回程度では、装置に対してあまり知識のないまま実験していたなと痛感しました。今回、ビームラインアシスタントとして、約一ヶ月と短い期間でしたが、毎日のビームアライメントや、ユーザーの方々の実験を拝見し、さらに予備日などの空いてる時間を使って測定をさせていただいたおかげで、非常によい勉強になりました。鈴木さん、五十嵐さんには、いままでやったことのなかったキセノンの導入の実験を教えて下さったり、SHARP の使い方を伝授してもらったりしました。これらは研究室に戻ってから非常に役立っています。そのうえ雨の目も風の日もさらには嵐の日までも食事の度に車をだして下さるなど、何から何までお世話になりっぱなしでした。このような親切なスタッフ、ユーザーの皆様のフォローがあってこそ、なんとかアシスタントをつとめる事ができたと思います。短い期間でしたが、非常に有意義な経験ができたと感じております。これから研究を進める上で、役立つことは間違いないと思うので、まだビームラインアシスタントの経験がない方は、できるだけ早いうちに経験してみたいと思います。

最後になりましたが、坂部先生をはじめ、SBSP の皆様、PF のスタッフの皆様、三菱電機の皆様、ほんとうにお世話になりました。また、機会がありましたら、お手伝いさせていただきたいと思います。ありがとうございました。